

国際会議 IABMAS2018 への参加報告†

谷口望*

1 はじめに

IABMAS-2018 (9th INTERNATIONAL CONFERENCE ON BRIDGE MAINTENANCE, SAFETY AND MANAGEMENT) は、橋梁の維持管理や安全性、マネジメントに関する国際会議である。本会議は、オーストラリアのメルボルン、Melbourne Convention and Exhibition Centre で、2018年7月9日から7月13日の間で開催された。この国際会議について参加したので報告する。

2 研究発表

本国際会議に我々が論文投稿したタイトルは、「A Preventive Strengthening Strategy for Aged Steel Columns」(和訳：老朽化した鋼製柱の予防補強方法に関する研究)である。本内容は、日本鉄鋼連盟・鋼構造研究・教育助成事業・研究分野指定助成「既設鋼構造物の複合構造化による強靱化対策工法の開発」(研究代表者谷口望)の助成を受けて研究を実施したものであり、この成果発表に位置付けられる。また、海外渡航に関しては、前橋工科大学の平成30年度重点研究費(海外短期研修費)を使用した。

研究の内容としては、腐食損傷を受けた鋼製柱に対してポリマーセメントモルタルを活用して補修補強する研究内容である。近年、世界的に土木構造物の老朽化が大きな問題となっているため、多数の参加者があり、活発な議論が行われた。また、次回 IABMAS2020 は日本の札幌で開催ということもあり、日本国内の技術者の参加も多くみられた(写真-1, -2)。

3 そのほか

メルボルンは、オーストラリア国内人口で第2位の大都市である。都市内はきれいに整備されており、凝った形のオブジェ等が街中に展示されているなど、裕福な印象を受けた。さらには、廃線になった鉄道橋を、歩道として再整備し、古い構造も芸術作品の一部として活用しているような点も見受けられた。

特筆すべきは、市内中心部環状線の内側の路面電車が、無料で運行されていることである(写真-3)。この路面電車の運行費用は税金で賄われていることになるが、前橋市と比較してもメルボルンの財政が豊かであることはうらやましい限りである。このような政策は、広大な土地で資源が豊富であるオーストラリアだから成り立つものであると考えられる。

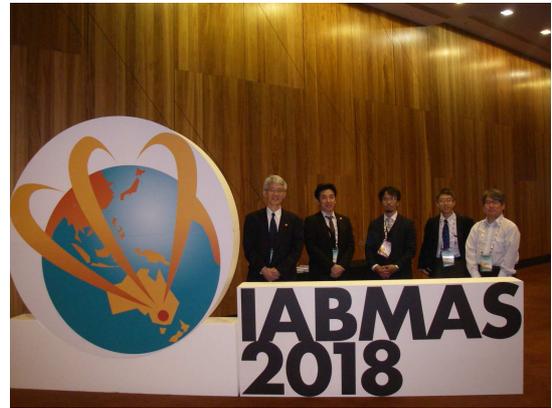


写真-1 会場での記念写真
(左より、坂野教授(関西大)、石川准教授(関西大)、公門氏(京橋ブリッジ)、白旗教授(東京都市大)、著者)

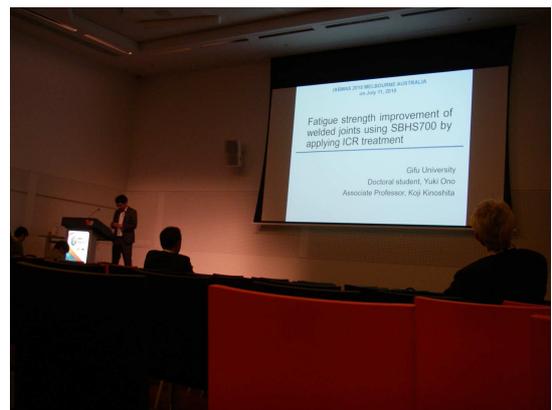


写真-2 発表会場(発表者は小野氏(岐阜大学生))



写真-3 無料の路面電車

† 原稿受理 平成31年2月28日 Received February 28, 2019

* 社会環境工学科(Department of Civil and Environmental Engineering)

